

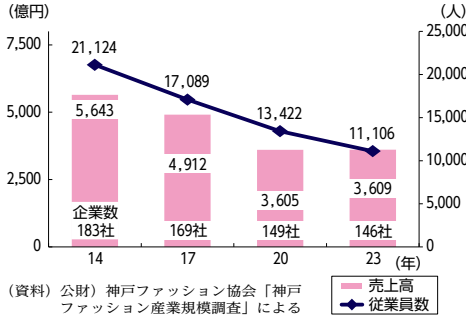
アパレル

▼最近の業況とコロナ禍をめぐる取り組み

神戸のアパレル業界の現状は、2014年の消費税引き上げに伴う買い控えと大手アパレルの大量閉店、20年に発生したコロナ禍の影響等により、20年の業界全体の売上高は3605億円と近年で最低となった。直近の23年では企業数、従業員数の減少が続いているものの、コロナ収束を機に個別企業の多くが業況を回復、売上高は3609億円と回復の兆しが見られる【図】。

ベビー・子供服を製造販売する企業は店頭での接客がネックとなり、コロナ禍が猛威を振るった当初は感染対策を優先して店舗を閉鎖した。しかし、対抗策としてネット事業に注力、一部商品のネットでの先行販売、自社の強みの接客スタッフによる商品説明のSNSでのリアルタイム配信などにより、ネット売上を伸ばした。このほか、少子化により子供・ベビー向け市場が縮小する中、大人向けの「お客さまが卒業しないブランド」の小物・文具・鞆などの「ライフスタイル雑貨」、コラボによる自社スタイルを取り入れた「大人服」などの企画・販売に取り組んでいる。

【図】神戸市 アパレル産業の産業規模の推移



(資料) 公財) 神戸ファッション協会「神戸ファッション産業規模調査」による

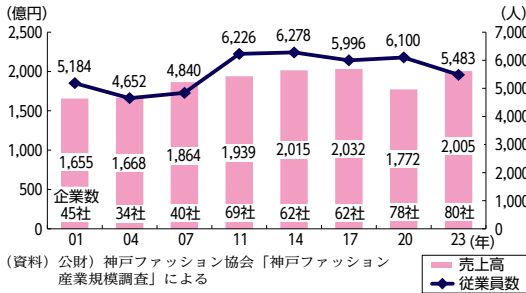
洋菓子

▼コロナ禍以降の洋菓子の売上高は増加

神戸(阪神地域)の洋菓子の売上高は、2001年から17年にかけて1665億円から20032億円と一貫して増加してきたが、20年は新型コロナウイルスの感染拡大により、百貨店、ショッピングセンター、路面店が臨時休業や営業時間の短縮に追い込まれた結果、17年比260億円減少した。23年は行動制限が解除されたこともあり、2005億円と20年比233億円増加した【図】。

総務省「家計調査(二人以上の世帯)」により、県庁所在地別の一世帯当たり洋菓子(※)の年間消費額(2021〜23年の平均)をみると、神戸市は全国第10位の2万4450円と多い【表】。神戸には全国的に有名な老舗洋菓子店が多く、市民にとって身近な存在となっていることが分かる。

【図】神戸洋菓子産業の産業規模の推移



(資料) 公財) 神戸ファッション協会「神戸ファッション産業規模調査」による

【表】洋菓子の世帯当たり消費額

順位	都市名	消費支出 (円/年)
1	金沢市	27,422
2	さいたま市	26,244
3	東京都港区	25,710
4	大津市	25,554
5	千葉市	25,442
6	横浜市	25,108
7	富山市	24,783
8	岡山市	24,761
9	川崎市	24,579
10	神戸市	24,450

(資料) 「家計調査」(総務省) 2021〜23年の平均
(※) 洋菓子はカステラ、ケーキ、ゼリー、プリン、その他洋生菓子の合計

姫路の菓子

▼和菓子、油菓子、洋菓子など多彩

姫路の菓子は、江戸時代後期、姫路藩主・酒井忠^{ただきね}以の時代に藩の財政が窮乏する中、産業振興の一環として和菓子づくりを奨励、藩命により職人や藩士を江戸、京都、長崎へ派遣し技術を習得させたことが菓子づくりの原点とされる。その後、長崎に伝わった南蛮菓子の技術を取り入れ、地元の良質な小麦粉、菜種油などを使った油菓子も盛んにつくられた。近年は、江戸時代以来の伝統技術を活かす一方で、洋菓子部門も充実させるなど消費者の嗜好に合った菓子づくりがなされている。姫路市内の和菓子・洋菓子等の製造販売業者を束ねているのが「姫路菓子組合」である。同組合は1918年に「姫路菓子同業組合」として設立、2010年に現在の名称に変更され、製菓技術の継承と向上を目指し活動している。

そのひとつが4〜5年ごとに開催される「全国菓子大博覧会」への出展である。第28回大会が25年5月30日〜6月15日に北海道旭川市で開催され、同組合の加盟店が米菓・油菓子部門で最も栄誉ある賞とされる名誉総裁賞を受賞した。このほか和菓子部門、洋菓子部門、餡菓子部門で加盟店が大臣官房長賞を受賞するなど高い評価を受けた。同博覧会は、かつて(08年)姫路城周りで第25回大会が開催された。この成功を受け09年以降は毎年「姫路菓子まつり」が開催されているほか、「城菓町・姫路」宣言がなされるなど、姫路の菓子の振興に向けた取り組みが行われている。